

be動詞と場所を表す前置詞(in / on / under / by)は、教科書の絵だけで教えると「日本語訳の暗記」になりがちです。TPR(Total Physical Response)なら、指示を聞いて体を動かすだけで、意味理解と定着が同時に進みます。英語が苦手な生徒も「動けばいい」ので参加のハードルが低く、1学期の学級づくりにも効きます。

この教材で解決できる悩み

- ・ 入学直後で英語への苦手意識が固まる前に「英語は楽しい」を体験させたい
- ・ 前置詞のイメージが定着せず、いつまでも日本語訳に頼ってしまう
- ・ ALTとのチームティーチングの役割分担が毎回あいまい

教材の概要

項目	内容
対象	中学1年(SUNSHINE 1 PROGRAM 3)
文法項目	be動詞(存在のbe) + in / on / under / by
形式	授業案A4・3ページ(指示フレーズ50本リストつき)
所要時間	50分×1コマ
準備物	ぬいぐるみ等の小物1つ、(あれば)タイマー

授業の流れ(50分)

ウォームアップ: 教師モデル(10分)

教師(またはALT)が "I'm by the window." と言いながら実際に窓際へ移動して見せます。3～4例見せたら、生徒は聞いて指差すだけの段階(listen & point)へ。発話を急がせないのがTPRの原則です。

展開1: 全員で動く(15分)

"Stand by the door." "Put your pen under the textbook." など、付属の指示フレーズリストから教師が指示を出し、全員が動きます。指示は易→難の順に並べてあるので、上から順に使うだけで成立します。

展開2: 生徒が指示役(15分)

4人グループで、生徒が交代で指示役になります。指示役はリストを見てOK。「言えた・動けた」の成功体験を全員に保証します。

まとめ: 文字との接続(10分)

最後に本時の指示文を3つ板書し、口頭で慣れた文を文字で確認します。音→意味→文字の順に接続するのがポイントです。

盛り上がる活動なので、指示を出す前に「動くのは指示の後だけ」「走らない」の2つのルールを先に約束してください。ルール提示もぜひ英語で(Don't run! はPROGRAM 4の先取りになります)。

チームティーチングの役割分担

- JTE: ルール説明・グループ編成・つまづいている生徒の支援
- ALT: モデル提示・指示出し・発音フィードバック

指示役が回らないグループには、ALTが入って一緒に指示を出すと停滞しません。

評価について

本時は記録に残す評価は行わず、観察メモに留めるのが現実的です。文字での定着はPROGRAM 3末の小テストで測ります。